

31H 熊井 桃奈 33H 林 悠生 33H 釜野 楓佳
 34H 小倉 千愛 35H 瀧野 陽平 36H 太田 義信

■課題

能登地域のバスの利用者が減少している。

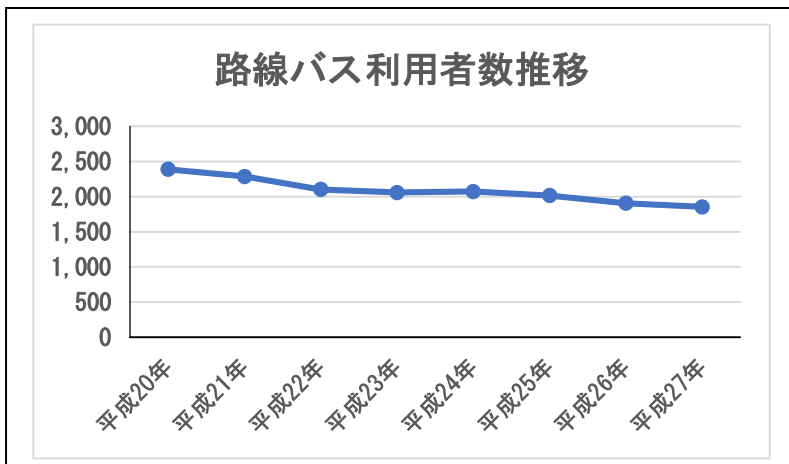
■解決策

ダイヤを見直し、通学・通勤などで利用者が多い時間帯の便を増やす。

■現状（課題の背景）

- ・石川県の一世帯当たりの自家用車数の平均は1.46台であるので、家族での外出の際に公共交通機関を使う必要がない。
- ・学校周辺のバスのダイヤと学生の利用可能な時間にずれが生じている。
- ・特に鵬学園、七尾東雲高校、七尾東部中付近のバス停は学生の需要と利用可能な時間が一致していないか存在しない。

これらの原因によって、バスの利用者数が年々減少している。



学校付近のバス時刻の例

七尾駅前から高浜方面
 15時台、16時台に一本ずつ
 18時台に二本
 学生は使いやすい。

鵬学園前のバス停
 最終便が15時台
 学生は使いにくい。

■具体的内容

- ・学生の登下校の時間を調べ、周辺時間のバスの本数を増やす。
 - ・学校近くにバス停を設置する。
 - ・コスト削減のため、利用が難しい時間、利用者の少ない時間の本数を減らす。
- 能登の社会人は平均的に自家用車を持っているため、学生の通学に焦点を当てた。

～バス停ができるまで～

1. 自治体担当者に持ちかけ
2. 関係者間で相談
3. 関係者が現場に集まって議論
4. 個別の調整
5. 承認を受けて申請

■効果

ニーズに合った時間、場所にバスを増発させることで利用者の増加が期待できる。

（実例①）山形県鶴岡町の庄内交通の取り組み

メインの利用者である高齢者にアンケートを取り、高齢者が多く住む地域を調査し、路線を変更した。

（実例②）静岡県浜松市遠州鉄道の取り組み

雨・雪の日には、自転車やバイクの利用が難しく、バス利用が増加するため、雨・雪の日に限定してバスを増発し、需要への対応、バス利用の促進を促した。

➡ニーズに合わせてダイヤの変更を行う団体が多い。→現実的な効果が期待できる。

■参考文献

七尾地域公共交通網形成計画

<https://www.city.nanao.lg.jp/kikakuzaisei/koukyoukoutuu/nanao-moukeikaku.html>

地域公共交通 国土交通省 中部運輸局 <https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/index.html>

自家用車普及台数 都道府県データランキング <https://www.jorudan.co.jp/> <https://uub.jp/pdr/t/cr.html>